

中央大学感性工学・認知科学クラスターシンポジウム2019

<趣旨>

過去約10年の間に、公共の場でのスマートフォンやタブレット端末の使用は常態化した。テクノロジーの受容により個々人の内面で価値観が変化し、それによる行動変化が社会の大多数を占めるようになったことで慣習や道德などの社会規範が変化した結果である。一方で、法規範は行動や社会の変容に必ずしも追従していない。

未来社会においては、イノベーションの持続的創出に向け、個々人の多様な知的活動を最大限に活用することが望まれている。現在よりも更に個々人の考えが重視される世の中で、社会規範がどのように形成されるのか、また法規範がどうあるべきか、法学的、感性工学的、脳科学的視点で考察する。

法と脳

～認知多様社会の規範はどうあるべきか？～

2019年8月25日(日)

中央大学後楽園キャンパス 3号館
3300教室 (3階)

開場 12:30

開会 13:00

事前登録不要

参加無料

<プログラム>

13:00 開会のあいさつと趣旨説明

13:05 話題提供・講演

加藤 淳子 (東京大学法学部政治学研究科教授 (政治学))

『リーガルマインドの脳科学：感情と法的判断』

板倉昭二 (同志社大学赤ちゃん学研究センター専任フェロー教授、副センター長)

『乳児における向社会行動』

14:25 休憩

14:35 問題提起プレゼンテーション

橋本 基弘 (中央大学法学部教授 (憲法学)、学校法人中央大学常任理事)

『コモンロース的発想の復権－法の支配と社会の多様性－』

牧 敦 (株)日立製作所 基礎研究センター 主管研究員)

『生物学的に法はデザインできるのか?』

加藤 俊一 (中央大学工学部経営システム工学科・教授、研究推進支援本部長)

『感性の多様性、価値観の多様性』

15:50 総合討論

16:20 閉会



板倉昭二



加藤 俊一



加藤 淳子



橋本 基弘



牧 敦

